

第50回 全国ホタル研究会 新潟県関川村大会

期日 2017年 平成29年 6月30日(金)~7月2日(日)

場所 関川村村民会館ほか
(新潟県岩船郡関川村大字上関1285 TEL 0254-64-2134)



大したもん蛇まつり



重要文化財 渡邊邸



岩船産コシヒカリ



主催：全国ホタル研究会

主管：第50回全国ホタル研究会新潟県関川村大会実行委員会

【構成団体及び機関】

関川村、新潟県ホタルの会、関川村ホタルの会、国土交通省羽越河川国道事務所、関川村教育委員会、関川中学校、関川小学校、関川村商工会、関川村観光協会、荒川漁業協同組合、関川村温泉旅館組合

後援：環境省、新潟県、新潟県教育委員会、村上市、村上市教育委員会、胎内市、胎内市教育委員会、下川口集落、新潟県酒造組合、一般社団法人いわふね青年会議所、新潟日報社、読売新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、村上新聞社、いわふね新聞社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21

第50回全国ホタル研究大会新潟県関川村大会開催に寄せて

全国ホタル研究会

会長 **遊 磨 正 秀**



この度、第50回全国ホタル研究大会が、ここ新潟県関川村において全国の会員ならびに市町村民のみなさまの参加により開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

昭和43年（1968年）に始まりましたこの全国ホタル研究会は、本年で半世紀の歴史を踏まえることとなります。その間、さまざまな環境破壊・汚染問題が社会的に問題視され、環境庁が環境省に格上げされて環境関連の監視が強化されました。さらに、少なからぬ生き物が絶滅の危機に瀕していることが重視されるようになり、生物多様性条約の締結が国際的に進みました。それに呼応するように日本においても、環境・河川・農業・林業・漁業関連などの法規において環境保全あるいは生物多様性保全に配慮することが義務付けられました。それは、それまでの経済の発展を重視した社会の動きに対する反省ともとらえることができるものです。

本会がとりあげていますホタル類は、その光の美しさから昔より多くの人々に親しまれてきました。しかし、各地においてホタルが減少したことから、その回復を目指し、またそれらの生息環境の改善を試みるといった、さまざまな保全活動が粘り強く行われてきました。そして近年は環境改善が進み、さらに多大な保全・保護の対策が功を奏して、河川や水路では水生のホタル類が、また林野では陸生のホタル類がその命脈を復活させてきたところも増えてきました。

しかしながら、まだ多くの環境に関する課題が残され、あるいは新たな問題が生じています。水辺の生き物に関して近年多く語られるようになったことからは、圃場整備の在り方です。先行した都市開発や河川整備と併せて、暮らしをより快適、安全、経済的なものにしようとする社会の変革の末、実は私たちの暮らしの中での心のうるおいややすらぎをもたらしてくれる自然の恵みの重要性にあらためて気づかされることになったようです。

私たちの暮らしの身近な場所のいたるところでホタルたちが飛び回り、さらに四季のさまざまな生き物たちが賑わい、それらの情景によってより豊かな心身を育むことができるような環境を増やしたいものです。本大会が、多くの方々の今後の活動に有益な場となることを願っています。

「歓迎」と「ごあいさつ」

関川村長
第50回全国ホテル研究会
新潟県関川村大会実行委員会委員長

平 田 大 六



全国ホテル研究会の第50回という大切な節目にあたり、会場地をおひきうけいたしました。日本各地から、おおぜいの会員の皆さまが関川村においでくださいましてありがとうございます。村民あげて歓迎いたします。

関川村は人口5千人余、平成の合併に参加せず、2003年「小さくてもキラリと光る村」をめざして自立の道を歩みました。豊かな自然環境で基幹産業は「農」です。温泉旅館があり、古い家並みも残る歴史や文化の村でもあり、その風情をお楽しみください。

ホテルとのつき合いは古く、新潟県ホテルの会設立者の一人である嶋悌司先生のご指導によります。嶋先生は、地酒王国新潟清酒の指導者で、日本酒の醸造には、原料・水・空気などの自然環境が大切であることを提唱され、酒蔵周辺のホテルに注目されました。環境保全などの目的の「京都議定書」より、はるか以前からで、その先見に敬服します。

関川村ホテルの会は2004年の設立で、伊藤四郎会長は、以前から嶋先生の薫陶をいただいております。会は、勉強会や村内のホテル地図の作成、生息地の表示などの活動をしてきました。この会で勉強して、お客さまをホテル鑑賞に案内した温泉旅館のオカミさんもおります。健康づくりと合せて、村では、ホテル観察とウォーキングをセットにしています。小中学生たちもホテルに興味をもちはじめました。これまでのとり組みを「年表」にまとめましたので、ごらんください。

全国ホテル研究会の皆さまのご指導、国や県ご当局、各団体・組織の主管・後援ご協力に感謝申し上げます。

[関川村関連ホテル年表]

- 1989.6.16 新潟県ホテルの会設立
- 1993.5.20 「環境アピール」新潟県酒造組合
- 1994.8.27 伊藤四郎（現関川村ホテルの会会長）新潟県ホテル保護指導員となる。
- 1997. 「京都議定書」
- 2003.7.5 新潟県ホテルの会総会（関川村会場）
- 2004.7.1 関川村ホテルの会設立（伊藤四郎会長）
- 2008. 関川村ホテルの会で下川口、幾地の両地域に標柱「ホテルの生息地」を設置
- 2011.7.1・8 関川村住民福祉課で、ホテル鑑賞健康ウォーキング
- 2014.7.5 新潟県ホテルの会総会（関川村会場）
- 2015. 関川村ホテルの会で上野新地域に標柱「ホテルの生息地」を設置
- 2016.4.27 第50回全国ホテル研究会新潟県関川村大会実行委員会設置
- 2016.5 関川村立関川中学校のホテル研究
- 2016.5.21 新潟県ホテルの会第3回ホテル指導員養成講座を関川村会場で実施され、関川村立関川小学校大滝智子教諭他村民5名受講
- 2016.8.2 関川村立関川小学校3年生全員で教室内にホテルの幼虫の飼育観察を開始

ごあいさつ

新潟県知事

米 山 隆 一



第50回全国ホテル研究会新潟県関川村大会が開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地から御参加いただいた皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

さて、私たちのふるさと新潟は、緑豊かな山並みに囲まれ、日本海に向かって多くの川が流れ、肥沃で広大な平野が開けています。そして、四季の変化に富み、雪に育まれた水と緑にあふれた環境に包まれています。この豊かな自然環境は、ホテルを始めとする多様な生命に満ちあふれ、生活に安らぎと潤いをもたらし、本県の発展の基盤となっています。

このすばらしい自然環境を次の世代に伝えるため、本県では、県民、事業者、行政の連携と協力の下で、自然と共生した持続可能な地域社会づくりに取り組んでいるところです。

また、豊かな自然に恵まれた水環境を保全し創出する取り組みも進めています。その取組の一つとして、地域で保全活動を積極的に行っている湧水や清流を「新潟県の名水」として選定しています。

当地、関川村を流れる「荒川」は、本県を代表する清流であり、環境省の「平成の名水百選」及び「新潟県の名水」に選定され、その流域では、水環境の保全活動や水辺と親しむ事業が活発に行われています。

第50回という節目の大会が当地で開催され、全国からホテルの研究や保護活動に取り組む方々が一堂に会し、意見交換や情報交換を行うことは大変意義深く、ホテルの保護活動はもとより、ホテルを通じて、豊かな生態系とそれを育む自然や水環境の保全に対する理解が深まるものと期待しております。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました皆様に深く敬意を表しますとともに、大会の御成功と、研究会のますますの御発展を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

ごあいさつ

新潟県ホタルの会

会長 **佐藤俊男**



第50回全国ホタル研究会新潟県関川村大会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

新潟県はお米王国、水よし、空気よし、お魚（肴）よし、お酒よしとホタルの生息に適した自然環境豊かな県です。新潟県ホタルの会（事務局：朝日酒造）は、1989（平成元）年6月16日に越路町ホタルの会を中心に、上越ホタルの会など県内各地のホタル愛護会、愛好家ら17人で発足しました。年1回の総会と研修会を通して、新潟県内のホタル保護活動、調査・研究、ホタルを通じた環境啓発、普及活動等を行ってきました。故中川七三郎先生が初代会長として長年務められ、第2代会長関 誉隆氏、第3代会長小菅英春氏と引継ぎ、若輩者の私が第4代会長となります。現在、会員は個人・団体で約120名、年1回新潟県ホタルの会が主催となり、ホタル指導員養成講座を行っています。新潟県ホタル保護指導員養成講座時代から、昨年度まで465名が、新潟県ホタル保護指導員・ホタル指導員認定者となり、新潟県内の各地域で活躍されています。

来年は、新潟県ホタルの会は発足30周年となります。今後益々、ホタルの生息環境の大切さ、貴重さがクローズアップされてくることと思います。より多くの新潟県の皆様がホタルの存在を意識して、1人でも多くの子供たちにホタルの光を見せていただき、故郷にいがたの素晴らしさを伝えていただくことを切に願います。

大会事務局をお引受頂きました関川村の平田大六村長はじめ、関係職員各位、大会開催のため、何度も来県いただきました全国ホタル研究会の遊磨正秀会長、役員各位に、改めて感謝申し上げます。

最後になりますが、新潟県関川村で開催される第50回全国ホタル研究会が、盛大に開催されますことをご祈念申し上げます。また、全国から新潟県関川村に参集される全国ホタルの会の皆様、各県のホタル愛好者、研究者の皆様におかれましては、関川村の素晴らしい温泉でじょんのびしていただき、自然豊かな新潟県により一層の愛着をお持ちいただければ幸いです。

参加者皆様の益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

ごあいさつ

新潟県関川村ホタルの会

会長 **伊藤 四郎**



第50回全国ホタル研究会新潟県関川村大会が私たちの村で開催することになりました。全国からホタル愛好家の皆さんが大勢来村され、ホタル研究会の大会が開催されますことは非常に素晴らしいことでもあります。大会の開催決定までを振り返りますと、全国ホタルの会の役員皆様と新潟県ホタルの会の役員の方々が、数年前から大会候補地選定のために数回来村され、現地の下見や受け入れ態勢のヒヤリングなどを実施、協議した結果、当村で開催することになりました。

当村は、磐梯朝日国立公園の一角に位置し、飯豊連峰、朝日連峰、櫛形山脈に囲まれた盆地であり、村の中央を（上流は山形県境）一級河川荒川が東西に流れ、日本海に注いでいます。そして、その支流には中小河川の大石川や女川など数河川が合流し、流域に54集落が点在する中山間地です。

昔から、どの集落にもたくさんのホタルが飛び交い、優雅な原風景を醸し出してくれていました。が、昭和42年8月28日に未曾有の羽越大水害に見舞われ、高台を除く平地の田、畑、宅地は一面泥の海と化し、ホタルどころではありませんでした。

今まで経験したことのない大水害の復旧復興には長い歳月がかかり、その後、平成に入り漸く以前の環境に近づきホタルの生息に適した自然がよみがえった現在は、各集落の大半でホタルが飛び回るのが見受けられるようになりました。

村内で飛び回るホタルは、全て自然に孵化したものであり、人工的なお手伝いは一切しておりません。強いて言えば、5月初めから毎夜ホタル幼虫が上陸する光をそっと確認している程度です。

また、本年は羽越大水害復興50周年となる節目の年に、水と係わり深いホタル研究会が開催され、ホタル談義を共有し、人に優しいホタル情報を全国へ発信できる最高の機会でもあります。

ここで特筆すべき事案として、村内を飛び回る源氏ボタルの殆どが明滅周期2秒前後で、東・西日本型のどちらにも属さず、県内のホタル研究者からも注目されています。昔から日本列島を二分して西日本型、東日本型の源氏ボタルが生息し、明滅周期にはっきりと差異が確認されていました。しかし、当村ではその概念が薄れつつあり、地球環境の変化によるものなのか疑問もあります。

終わりにになりましたが、ホタルの保護を通じて自然に対する理解を深め、緑豊かなふるさとづくりに取り組まれる皆様にとりまして、思い出深いホタル研究会となりますよう心からお祈り申し上げます。

大会開催に寄せて

新潟県ホタルの会 初代事務局長
公益財団法人 こしじ水と緑の会
理事 **嶋 悌 司**



第50回という記念すべき全国大会ご参加の皆様にご心より大歓迎申し上げます。新潟県で全国大会が開催されるのは平成6（1994）年の第27回大会と2回目になります。

私たちの活動の始まりは昭和59（1984）年になります。この年、私は越路町（現在は合併で長岡市）の朝日酒造株式会社に工場長として入社しました。6月中旬、工場の排水を処理する施設の担当者が「ホタルがいました」、「どこに？」、「処理水を川に流す所！」、嬉しかった！処理がうまく進んでいてホタルが棲める程になっていることを示すからでした。シーズンになると今もその感動を思い出します。

少年の頃は（現在88歳）まわりに沢山いてホタルブクロに入れたり、蚊帳の中に入れたりしました。その頃の思い出をたどりながら、さて、どうしようかと考える楽しさを追っていました。

「ホーホーホタルこい」「ホタルの光」をうたい、「夏は来ぬ、ホタル飛び交い」（作曲者は小山作之助、新潟県人）を思い出しながら…。

私たちは、運動の進め方を次のように決めて、間違わぬようにしようと話し合い、誓い合いました。

- ①環境のホタル…環境を守ることを考える。
川を守る。空気を守る。
- ②教育のホタル…小さな生命、魚も鳥も、草木も守る。
- ③観光のホタル…ここを中心にしたら間違う。
どこにでもいて珍しくなくなれば人は来ない。

こうして33年経ちました。

町から県へと活動の進展、会社では事務局を受け、町のもみじ園・自然公園と併せ自然保護の流れを求め、公益財団法人を設立しました。ホタルは多分、CO₂の減少、原発やめろ、生命を守ろうに進むでしょう。楽しく語り合いたいですね。

プログラム

1日目 6月30日(金)

時 間	内 容	会 場
14:00～15:00	参加者受付	関川村村民会館 玄関
15:00～15:30	オリエンテーション	関川村村民会館 アリーナ
15:30～16:30	研究発表1 ① 関川村健康づくり推進協議会 ② 関川村立関川中学校	
16:30～	宿泊先移動・夕食	
19:30～21:00	ホテル観察会	関川村下川口

2日目 7月1日(土)

時 間	内 容	会 場
8:30～ 9:30	参加者受付（2日目からの参加者のみ）	関川村村民会館 玄関
9:30～10:00	歓迎アトラクション (1) 混声合唱（長岡市 ラ・ルシオル） (2) 篠笛（関川村 田村優子）	関川村村民会館 アリーナ
10:00～10:40	開会式 休憩	
11:00～12:00	研究発表2 ③ 関川村立関川小学校 ④ 新潟県ホテルの会	
12:00～13:00	昼食	関川村村民会館 アリーナ・大ホール
13:00～13:35	DVD上映 羽越水害から50年 「集中豪雨」8.28水害の記録	関川村村民会館 アリーナ
13:35～15:15	研究発表3 ⑤ 井口 豊 ⑥ 草桶 秀夫 ⑦ 大場 信義	
	休憩	
15:30～16:30	全国ホテル研究会発足50周年記念座談会 全国ホテル研究会	
16:30～17:30	全国ホテル研究会総会	
17:30～	移動	
18:00～20:30	交流・懇親会	せきかわふれあいど～む

3日目 7月2日(日)

時 間	内 容	会 場
地域観光	各自	

研究発表 1

- ① ホタルを活用した「村民健康ウォーキング」事業と村民の健康増進について
～平成 23 年度から過去 5 回 3 地区での実施を振り返って～
関川村健康づくり推進協議会
関川村住民福祉課健康介護班 保健師 佐々木沙織
- ② 関川村のホタル事情 関川村立関川中学校 荒木桜輔 近健太

研究発表 2

- ③ 「未来もホタル舞う関川村であるように」
関川村立関川小学校 4 年生
- ④ 新潟県ホタルの会の歩み 新潟県ホタルの会会長 佐藤俊男

研究発表 3

- ⑤ 志賀高原石の湯におけるゲンジボタル個体群の経年変化
井口 豊
- ⑥ ホタルからみた生物多様性と環境保全
草桶秀夫
- ⑦ 日本産ホタル類の固有性 大場信義

全国ホタル研究会 発足 50 周年記念 座談会

「全国ホタル研究会の半世紀とこれから」

大場 信義（元会長：第 27 回(1994 年)～第 33 回(2000 年)）

遊磨 正秀（現会長：第 49 回(2016 年)～）

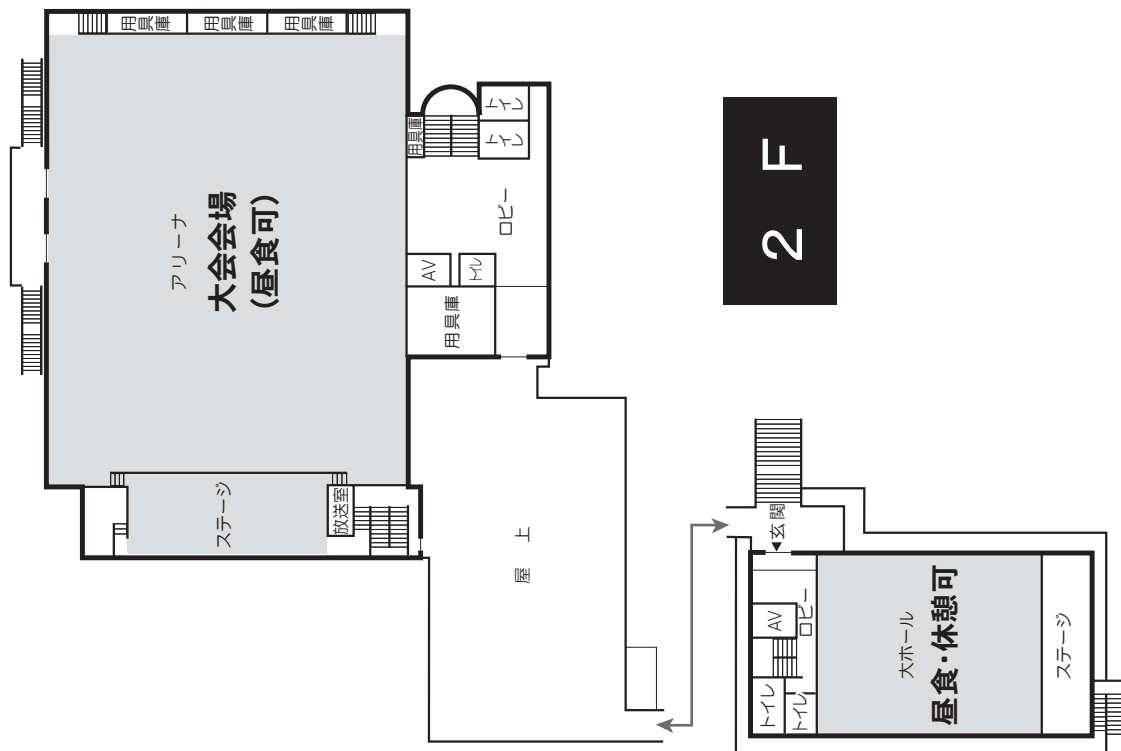
佐久間 桂祥（前事務局長：第 38 回(2005 年)～第 42 回(2009 年)）

中山 歳喜（現事務局長：第 43 回(2010 年)～）

会場案内



関川村民会館
 〒959-3264
 新潟県岩船郡関川村大字上関 1285
 TEL 0254-64-2134



ホテルを活用した「村民健康ウォーキング」事業と村民の健康増進について ～平成 23 年度から過去 5 回 3 地区での実施を振り返って～

関川村健康づくり推進協議会

関川村住民福祉課健康介護班 保健師 佐々木沙織

1. はじめに

村では、新潟県健康ウォーキングロードのコース認定をきっかけに、平成 21 年度から村民の健康づくりと運動定着を目的とした、「村民健康ウォーキング」を継続実施している。春は桜を活用し、冬期間は運動不足解消をねらい連続開催するなどして、事業を展開してきた。

しかし村では、働き盛り世代や男性、親子の参加が少なく、様々な年代層の参加を増やす取り組みの工夫が課題であった。

そのため平成 23 年度から、村ホテルの会と各集落の協力を得て「ホテル」を活用した村民健康ウォーキングを開催している。夜間帯に計 3 地区で実施した本取り組みは、村民の健康増進の新たなきっかけづくりになったと考えられる。本事業を振り返り、村民の健康増進について考えたい。

2. 方法

実施期間：平成 23 年 7 月～平成 28 年 7 月

(※平成 25 年は雨天中止。26 年は県ホテルの会総会とウォーキング合同開催)

調査内容：参加者数、村内参加集落数、参加者の感想、本事業後の反応など

3. 結果

・参加者状況：

一般参加者の他、今までのウォーキング事業ではあまりみられなかった村外の家族を誘った家族連れ、押し車や車椅子、独居の方、親子三世代、震災避難者の参加があった。

開催年度	コース	参加者内訳				参加集落数 (実)
		全数	村民	村民男性	高校生以下	
平成 23 年	下川口	70	67	15	8	26 集落 (54 集落中)
	山本～幾地	46	40	12	10	
平成 24 年	上野新	68	55	13	15	
平成 26 年	上川口～下川口	80	65	21	18	
平成 27 年	上川口～下川口	85	76	32	18	
平成 28 年	山本～幾地	58	51	18	10	
合計 (延)		407	354	111(31.4%)	80	

・参加者の感想：

「またやって欲しい」「歩き仲間を誘って来た」「隣の集落から歩いて来た」「母親が見たがり、押し車持参で連れて来た」「参加者の男性が足元を照らしてくれた」「みんなで歩くと楽しい」「久しぶりにホテルを沢山見た、感動した」「楽しみにして来た。初めてホタ

ルを見た」「孫とよい汗をかいた」「子どもが完歩し、成長を感じた」「事業後、また歩いたよ」

4. 考察、まとめ

- ・ホタルを活用したことで、様々な年代層の参加が促され、歩くきっかけづくりにつながった。男性参加は3割を超え、親子や家族での参加がみられた。ナイトウォーキングは、働き盛り世代や家族連れが参加しやすい時間帯であったと考えられる。
- ・会場地区では集落内で自主的に参加を促す声掛けを行い、地域ぐるみでの健康増進につながった。
- ・参加者に健康情報を発信する機会にもなり、他の健康づくり事業の紹介や、運動定着につながった。
- ・村ホタルの会の活動や集落行事が、村、県に広がり、いのちと自然の大切さや健康づくりを考える普及啓発につながった。
ウォーキングには気分転換、ホタルには癒しの効果があるとされるため、メンタルヘルスにも効果的な事業であった。(当村は県内でも自殺率が高く、自殺防止を強化している)

5. さいごに

本事業の参加者をはじめ、携わってくださった皆様方に大変感謝申し上げます。本事業は、村の豊かな自然のもと、村ホタルの会、地域、他課、運動関連団体等、多くの関係機関との連携・協力を得て開催してきました。今後も健康増進のため継続していきたいと考えております。参考資料、文献)

関川村ホタルの会資料、地域看護活動の方法 概念の明確化からアセスメント・施策化へ

▼ホタルを活用した村民健康ウォーキングの様子(ラジオ体操、ホタル生息地ウォーキング)



▼関川村ホタルの会の活動の様子(生息地の観察、ほたる^{マイロード}舞道のポール設置等)



ホタルは自然環境の指標昆虫

ホタルマップ

関川村ホタルの会

(平成十六年七月一日設立)

新潟県岩船郡関川村

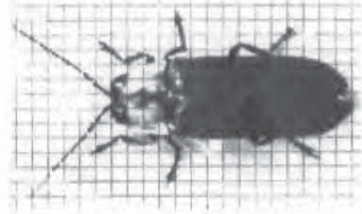


♪ ほーほー ほータル 来い
あーちのみのーずは にーがいで
こーちのみのーずは あーまいぞ
ほーほー ほータル 来い

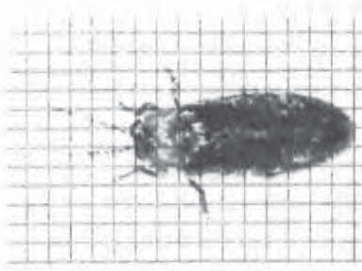
◇ホタル観賞時の注意事項

- ① 車のハザードランプや懐中電灯で、ピカピカ照らさないこと。
- ② 懐中電灯を使用する場合は、足元を照らすのみに使用すること。
- ③ ホタルを捕まえて、持って帰らないこと。
- ④ 川には、タバコの吸殻など絶対に捨てないこと。
- ⑤ ホタルをフラッシュ撮影しないこと。
- ⑥ 大きな声を出して、隣近所の皆さんに迷惑をかけること。

ゲンジボタル



ハイケボタル



関川村のホタル事情

関川村立関川中学校 荒木桜輔 近健太

1 はじめに

平成 29 年度に、関川村を会場として「第 50 回全国ホタル研究会新潟県関川村大会」が開催されるということで、科学研究のテーマに設定し、関川村のホタルについて調べてみた。毎晩観察に行くこともできず、思うような研究ができなかったが、今後、関川村のホタルを増やすための手立てを考えてみた。

2 関川村で見られるホタル

- ・関川村で見られるホタルは主に 2 種類で、「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」である。※ヒメボタル（陸生のホタル）など、他の種類はいないようである。
- ・関川村では、早ければ 5 月下旬から、ゲンジボタルのみ→ゲンジボタルとヘイケボタルの共存→ヘイケボタルのみ（8 月上旬）と変化する。

◎ゲンジボタル…本州、四国、九州に分布。清らかな川やせせらぎに生息。

- ・体長 15 ～ 18 mm

※関川村で捕まえたこの写真（H28.6.30 撮影）の雄のホタルは体長 15 mm であり、本等の資料に提示されている最小の大きさと言える。



- ・前胸部の背の模様が、黒色の細い縦模様
縦模様の中に横に広がる黒斑があり、
十字型に見える。
- ・主食は、カワニナ。用水路の中にも確認
できた。

◎ヘイケボタル…日本全土から東シベリアや韓国にも分布。湿地や田んぼなどに生息。

- ・体長 7 ～ 10 mm

※関川村で捕まえたこの写真（H28.8.5 撮影）の雄のホタルは体長 7 mm



- ・前胸部の背の模様が、太い黒色模様
- ・ヘイケボタルは、田んぼの小動物を食べる。

○他に見られる主な特徴（ゲンジボタルとヘイケボタル共通）

- ・発光器の位置はオスとメスで違い、第5節目と6節目の2つが光るのがオス、メスは第5節の1節だけで光るので見分けられる。



←ヘイケボタルのメス

- ・成虫の寿命はともに1週間くらい。
- ・成虫は、口が退化してしまうため、夜露（よつゆ）しか飲まない。観察のため、捕まえてきたホタルは、日中、水のそばでじっとしていた。

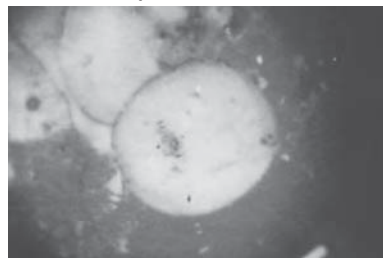


←H28.8.4につかまえたホタルは、すべてヘイケボタルだった。

- ・翌日、メスのヘイケボタルの腹部を顕微鏡で拡大してみると、卵が見られた。成虫でいられる1週間の間に、次の世代を残している。



赤い粒のように見えるのが卵



翌日、水中に見られた卵

※卵のふ化はあきらめたので、捕まえた場所に戻した。

※関川村に生息するホタル特有の特徴は、見つけることができなかった。

3 疑問 ホタルは本当に身近な生物なのか？

私たちは、ホタルという名前の生物を知っています。そして、昔はたくさんいたとよく聞きます。しかし、現在、家の周りや田んぼではあまり見られません。中学生とホタルとの関係を調べるために、昨年と今年、関川中生徒にアンケートを取ってみました。

☆関川中学校アンケート結果（平成28年・29年 5月実施）

（1） H28.5.20 実施 115人／127人からの回答を集計した結果

●質問1 昨年、家の近くでホタルが光っている姿を

見たことがある。	見たことがない。
29 %	71 %

☆見たことがあると答えた人からの情報

安角 高田 上野新 南赤谷 下川口 久保 蕨野 上関

◎名前のがあった地区は、田んぼの近くに雑木林となる典型的な里山地区と言える。

●質問2 昨年、家の近くではないが、ホタルが光っている姿を

見たことがある。	見たことがない。
18 %	82 %

◎わたしたちは、あまりホタルを目にしなくなってきている。

●質問3 これまでの経験で、ホタルをつかまえたことが

ある。	ない。
18 %	82 %

◎私たちにとって、ホタルは身近な生物ではなくなってきている。

（2） H29.5.17 実施 123人／128人からの回答を集計した結果

●質問1 昨年、家の近くでホタルが光っている姿を

見たことがある。	見たことがない。
24 %	76 %

☆見たことがあると答えた人からの情報

安角 上野 上野新 上関 鯉江沢 下川口 勝蔵 高田 滝原 荒川台
辰田新 朴坂 沢 南中

※昨年よりも、集落名が増えている。意識して観察した結果と考えられる。

●質問2 昨年、家の近くではないが、ホタルが光っている姿を

見たことがある。	見たことがない。
29 %	71 %

◎昨年よりも数値が増えた理由は、現在の中学1年生が小学6年生の時に、ホタルの観察会に出かけたためである。

●質問3 これまでの経験で、ホタルをつかまえたことが

ある。	ない。
25 %	75 %

☆全国ホタルの会の開催は、ホタルへの関心を高めたり、自分の身の回りの環境を考えるきっかけとなっている。

4 下川口でのホタル観察記録

※関川村ホタルの会の会長である伊藤四郎様からお話しを聞き、下川口のフィールドで観察を行った。関川中学校からは約3 km 離れている。



- ・平成28年は、例年よりも早くホタルが飛び始めた（5月下旬頃）。昨年は降雪量が少なく、雪解けが早かったからだろう。 ※H29.5.24 現在は観察できず。
- ・道路沿いに明るく光る街灯があったが、ホタルはその近くでも飛んでいた。
- ・雨の日は飛びまわることはないが、葉の陰や草の根元で光っていた。
- ・その場で捕まえて、光っている部分を確認すると雄と雌の違いがすぐに分かった。
- ・6月30日の午後8時頃、飛んでいるホタルを捕まえると、ほとんどが雄のゲンジボタルであった。
- ・草につかまって光っているホタルは、メスのゲンジボタルであった。
- ・6月始めはゲンジボタルがほとんどで、6月下旬にはヘイケボタルとまざり、7月下旬ではほとんどがヘイケボタルであった。8月5日につかまえたホタルは、すべてヘイケボタルであった。
- ・ゲンジボタルに比べ、ヘイケボタルの方の点滅が早かった。
- ・家にあるカメラやビデオで撮影を試みたが、かなり難しい。
- ・ホタルが飛んでいる写真は撮影が難しく、父に協力してもらった。



←草むらで光るホタル
ほとんどが雌であった。



街灯の近くでも飛ぶホタル

5 ホタルがあまり見られなくなっている原因として考えられること

① 用水路・排水路の整備

稲刈りが終わった秋の田んぼで、用水路の整備が行われていた。稲の生産性を上げるために必要な工事だが、このときの工事の影響が考えられる。えさとなる生物（カワニナ）が一時的にいなくなったり、その生物のえさも流されることから、その一帯からホタルが姿を消すのではないかと考える。



←大きい用水路は流れも速く、カワニナのえさとなる落ち葉も流される。カワニナそのものも生息しにくくなる。



←下川口の整備されたばかりの排水路



←清流荒川から田んぼへ水が引かれます。

用水路、排水路の整備は生産性を上げ、おいしい米作りにつながっている。

② カワニナそのものの減少

昔はカワニナのえさとなる野菜くずや落ち葉が用水路に捨てられていたとのこと。現在は川に生ゴミを捨てるようなことはない。きれいな水環境が、結果としてカワニナを減らすことになったのではないかと考えられる。

6 関川中学校の学校田

今年も、学校田に餅米の苗を全校で植えた。ヒルがたくさんいる田んぼで、生物がたくさん生息している田である。この場でぜひ、ホタルがたくさん飛んでいる姿を見たい。



←今年度の田植えの様子



↑
昨年の関川中学校の学校田

昨年、私たちが →
植えたもち米の苗



7 ホタルと地域おこし

関川村ではまだ村内のあちこちでホタルを見ることができる。餌となるカワニナをもっと増やすことで、ホタルの数を増やすことが可能である。ホタル＝自然が豊か（環境がきれい、水がきれい）というイメージがあるので、ホタルの存在を上手に村外へ伝え、村のアピールにつなげられればと考える。



←トンボ池につながる小川

幼虫が生息できる環境として、幼虫がもぐりこめるやわらかくてすき間が多く、保湿性と排水性を兼ね備え、雨水で流失しない土という条件が必要です。

※昨年この場所では、数匹のホタルしか観察できなかった。

8 ホタルを増やすための手立て

暗闇の中で明るく光るホタルはとても美しく、きれいである。実現可能かどうかは考える余地があるが、自分達ができそうな手立てを考えてみた。

- ① つかまえて、人工的に繁殖させてホタルの卵を確保する。
- ② ホタルの生息場所を人工的に作り、その場所を管理する。
- ③ ホタルのえさとなるカワニナを増やすため、カワニナのえさとなるものをまく。
- ④ 住民みんなが、ホタルの生態について勉強する。
- ⑤ ホタルをつかまえない。
- ⑥ きれいな水が流れる環境をつくる。
- ⑦ 自然保護の関心を高め、一人一人がもっと自然を大切にする。
- ⑧ 一度いなくなってしまったところに復活させるため、近くのホタルをつかまえてはなす。
- ⑨ ホタルの幼虫が増えそうな、米作りもすすむような用水路・排水路を考える。
- ⑩ 現在ホタルがいる場所をきちんと調べて、ホタルの数が減らないように、工事や管理を制限する。
- ⑪ 他地域の取組を参考にする。

自然環境保護は、誰が中心となって行うか、工事を行う場合、費用はどこから出すのか、もし人工的な川を作った場合、維持管理を誰が行うのか。正直、中学生としてできることの限界を感じた。

でも、友達に調べた結果を発表したり、親や地域の人に伝えることはできそうなので、やれることからチャレンジしていきたい。



9 終わりに

- ホタルについてまだ分からないことがたくさんあるので、もっと勉強したい。
- 降雪量と地中の温度を測り、ゲンジボタルが姿を見せ始める時期をつきとめたい。
- ホタルを増やすためには、えさとなるカワニナを増やさなければならない。カワニナの飼育は、ホタル以上に難しいということで、冬の間水槽で飼育して観察をしたい。
- 自然界でカワニナを増やした成功例として、野菜くずをまく、牡蠣がらを砕いて撒くという方法が紹介されていた。関川村で継続して可能なかどうか確認したい。
- ホタルについて調べていると、「遺伝子汚染」という言葉も出てきた。安易な気持ちで自然に手を加えることのないように、もっとしっかりと学習したい。

10 参考図書

- 『田んぼの生きものたち ほたる』 大場信義 農文協
- 『ホタルの里づくり』 自然環境復元研究会 編 信山社サイテック
- 『ホタル百科』 東京ゲンジボタル研究所 著 丸善株式会社



関川村立関川小学校4年生の発表

「未来もホタル舞う関川村であるように」

1 はじめに

大朝日岳を源に、関川村内を流れ、日本海に注ぐ荒川。「荒川は日本一の水質に選ばれたことがある。」調べ学習で見付けた情報から、「えっ、日本一？本当？」「今でも荒川の水質はきれいなのか？」をテーマに3年生の総合的な学習の時間が始まりました。私たちの身近にある荒川と5つの支流にどんな生き物が生息するか、調べ学習や、水生観察を行いました。その中で、大石川近くのホタル生息地でホタル観察会を行い、ホタルについても調べてきました。「関川村ホタルの会」の皆様をはじめ、たくさんの皆様に支えていただきながら、ホタル観察や幼虫飼育、専門家からの授業や長岡市の越路西小学校との交流学习などを通し、ふるさと関川のよさを感じ、自然についての知識を深めました。4年生に進級し引き続きさらに未来の関川村の自然を守るために自分たちができることを考えてきました。その活動内容を発表します。

2 活動について

(1) 下川口地区でのホタル観察

関川村のホタル観察地、下川口地区でホタルの観察会を行いました。関川村ホタルの会会長様から観察地を案内いただきながら、無数に舞うホタルの世界を体感しました。ホタルをそっと手に取り、静かに光る様子を眺めたり、体に止まらせたり、ホタルに魅了されました。

名前 佐藤 優衣

私は下川口にホタルを見に行きた
時、うれしかったです。なぜかとい
うとバスを降りた時にピピピと
しかいなかたのにおくに歩
いていくとホタルがたくさん
いたので、おかえにきてくれている
ので、うれしかったです。

名前 さとう 青空

ぼくはホタルのことを見に行くの
は二回目だったけれど、こんなに
ホタルがいたのは始めてだ
たから楽しかったです。ホタル
が手に来て、元気でねと、ホタル
飛びたつ時に言いました。また、行く
きっかけがあったらまた行きたいです。

～保護者の方より～ 思ったよりもたくさんのホタルがいて感激しました。ホタルの数で周りも明るく、子どもと一緒に数を数えました。また見に行きたいです。

(2) 水生生物観察

荒川の水質調査や、大石川、女川の水生生物観察をしました。簡易水質調査の結果や、実際に見つけた生物の種類から、それぞれの川がとてもきれいな水質であることが分かりました。



あ！カジカ発見！！泳ぐの速いなあ！

澄んでいて、とてもきれいな川！



(3) ホタルの幼虫飼育

「成虫に卵を産ませて幼虫になったホタルがいるよ。」夏休み明け、子どもたちに話すと「え〜っ！見たい！」「育てたい！！」との声。一人一人がホタルのお父さんお母さんとなり、幼虫飼育が始まりました。はじめはどこにいるのか見えにくかった幼虫も、日に日に大きくなり、2 cm位にまで成長しました。5月、上陸装置に幼虫を移し、成虫になる日を楽しみに待っています。すくすくと成長する幼虫に愛着をもち、優しく声をかける姿が見られました。昆虫が苦手な子も「ホタルはかわいい。」と話すなど、愛情をいっぱい注ぎながら飼育を続けました。

ゲンジボタルも
ハイケボタルも
両方いるね。



上陸装置完成。ホタルさん頑張れ！成虫になって、また会おうね！

(4) 学習発表会

これまでの学習で知ったホタルの生態や、ホタルの一生について、全校のみんなに劇とクイズで伝える機会をもちました。ホタルの面白さ、素晴らしさが伝わるように自分たちで内容を考えて発表を行いました。

ホタルはオスよりメスが大きいよ。みんながホタルのことを知ってくれてうれしいな。



ホタルクイズ、みんな正解できるかな？

(5) 越路西小学校との交流会

10月、長岡市の越路西小学校4年生と交流会を行いました。越路西小学校は、30年以上前からホタルについての学習を続けているとのことで、今年の研究内容についての発表を聞きました。ビオトープやホタルの上陸装置についての話があり、ホタルへの興味が広がりました。ホタルに対する多くの人々の願いや思いに触れ、これから自分たちはどう研究を進めていくか、新たな課題をもちました。



(6) 「森の学校」～3人の先生から学んだこと～

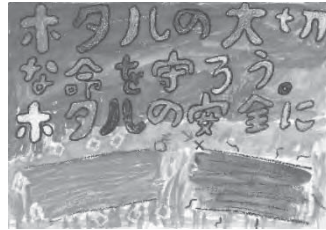
10月、「森の学校」として、地域振興局の皆様から森、ホタル、水生生物の講義をしていただきました。1つ目は、山とグラウンドの土に水が浸透する様子を比べる実験。2つ目は、荒川に生息する水生生物の実物を見せていただきながら水生生物の不思議な生態に触れる体験。3つ目は、ホタルの生態と、種類、光の秘密などホタルに関すること。ホタルや水生生物の生態の面白さを体験し、さらに調べてみたいと意欲を高めました。また、山は木に支えられている、豊かな川のためには、豊かな山が必要不可欠であることを感じる事ができました。



(7)「HOTARU大作戦！」～子どもたちの挑戦～

今までの学びをふり返り、未来の関川村の自然を守るために、自分たちが今できることについて話し合いました。そして、その活動を「HOTARU大作戦！」と名付け、活動を始めました。

「川のホタルを守りたい」
思いを込めて描きました。



「HOTARU大作戦！」

- 1、ピオトープを作りたい。→ピオトープについて調べよう。
- 2、川をきれいにしたい。
- 3、川をきれいに保てるように呼びかけたい。
→ポスターを描き、願いを伝えよう。
- 4、上陸装置を作って、ホタルの幼虫を成虫まで育てたい。
→4年生の5月、上陸装置に幼虫を移し観察中。



一人一人が未来の関川村を思い、願いをもって活動を続けました。

名前 大塚莉々
わたしはホタルをはじめ見たときにもるかわかたが不明でも毎日水が入るのをせわをしながらホタルの成長を待っていました。ホタルの成長を待っていて、たしかにわが村は、虫は多いがホタルは好きになりました。

名前 渡邊壮汰
ぼくはホタルを見ていつまでも生きてほしいと思いました。そのために、川にごみをすてないでホタルがすみやすい川を作りたいです。

名前 高橋陽菜
関川村は、自ぜんでいばいいます。これからはきれいな川をまもるために水を使いすぎないようにしたいです。きれいなホタルをしょうかい自分の子どもにみせたいです。

3 おわりに

活動を通して、子どもたちは、生き物の命や自然を大切にしようという思いが高まりました。そして、関川村を誇りに思う気持ちもより強くなりました。未来の関川村がこれからも自然豊かな村であるように願いながら、環境を守るために身近なところから取り組んでいきます。

新潟県ホタルの会の歩み

新潟県ホタルの会会長 佐藤俊男

1989（平成元）年 新潟県ホタルの会発足
事務局は朝日酒造



目的

- 本会は、新潟県ホタルの会と称し、自然環境の指標昆虫であるホタルの保護活動を図り、研究及び啓発活動などの情報交換並びに親睦の場とする。
- 会員数 個人102, 団体18（2017年4月現在）
- 主な団体会員
おおがたホタルの会（上越市大潟区）、越路ホタルの会（長岡市）、渋海ほたるの会（長岡市）、上越ホタルの会（上越市）、関川村ホタルの会（岩船郡関川村）、船岡町ホタルを育てる会（小千谷市）、与板町ほたるを守る会（長岡市）

所属する各地域の会は、それぞれがボランティアでホタルの保護活動を展開

○上越ホタルの会（上越市）

上越市の金谷山で「環境のホタル・教育のホタル・福祉に優しいホタル」をスローガンに活動。今年で設立40年を迎える。



子どもたちに環境学習の場を提供。学習施設「ほたるの宿」もある。



○船岡町ホタルを育てる会（小千谷市）

小千谷市内の船岡公園にて、ホタルの保護活動を展開。地元小学校の総合学習の支援やホタル観察会も行っている。



小千谷小学校への学習支援



水路の整備活動

○与板町ほたるを守る会（長岡市与板町）

与板町を流れる千体川（せんたいがわ）を中心にホタルの保護活動を展開。小学校の学習支援やホタルまつりも開催。



与板小学校への学習支援



千体川の清掃の様子

○長岡ホタルの会（長岡市）

火焰土器発掘の地「馬高・三十稲場遺跡公園」にある遠藤沢のホタル生息環境保全活動を実施。



遠藤沢



草刈作業

○渋海ほたるの会（長岡市塚野山）

長岡市越路地域で一番大きなホタル生息地の塚野山「牛の首地区」で、ホタルの生息環境保全活動を行う。毎年、越路ホタルまつりが開催され、多くの見学者でにぎわう。地元小学校への学習支援も行う。



水路の草刈作業



小学生の現地視察

○越路ホタルの会（長岡市越路地域）

越路地域8つのホタルの会とJA、学校ホタルの会からなる連合会。毎年6～8月の定点観察を実施している。学校ホタルの会は、地域の2つの小学4年生が毎年ホタルの学習を実施している。



ホタルの生息する棚田（長岡市岩田）



小学生の発表

その他、多くの個人会員の方々が、地元の団体などでホタルの保全活動を通して新潟県の自然保護活動を推進しています。

広く新潟県内に広がるホタル仲間たちが集い、情報交換をし、親睦を深める場が「新潟県ホタルの会」です。



長岡市と板町で季節限定で提供されるオリジナルカクテル「月夜の露～蛍とともに～」

新潟県ホタルの会の主な活動

- 総会
- 新潟県ホタル保護指導員講習会
（2014年よりホタル指導員養成講座）
- 研修会
- 会報「蛍とともに」の発行

総会

- 毎年、他地域のホタル生息地の見学を兼ねて、新潟県内各地で開催。
- 各ホタルの会の情報交換の場。



第25回総会（2013年上越市金山）の様子

総会の歩み

- 1989年 三島郡越路町 越路町役場
- 1990年 三島郡越路町 越路町役場
- 1991年 三島郡越路町 越路町役場
- 1992年 五泉市咲花温泉 望川閣
- 1993年 上越市金谷山 晴山荘
- 1994年 北魚沼郡守門村 目黒邸
- 1995年 佐渡郡佐和田町 佐渡中央文化会館
- 1996年 中蒲原郡横越町 農村改善センター
- 1997年 東頸城郡大島村 大島村公民館
- 1998年 三島郡越路町 総合福祉センター
- 1999年 糸魚川市新町 割烹民宿山水円

総会の歩み

- 2000年 柏崎市 柏崎産業文化会館
- 2001年 上越市 くわどりのゆったり村
- 2002年 柏崎市高柳町 門出かやぶきの里
- 2003年 関川村 農村文化交流センターの〜む
- 2004年 佐渡市三川 サンライズ城が浜
- 2005年 長岡市小国町 延命山荘
- 2006年 上越市金谷山 晴山荘
- 2007年 柏崎市高柳町 門出かやぶきの里
- 2008年 長岡市朝日 朝日酒造
- 2009年 三条市高岡 割烹旅館 公楽

総会の歩み

- 2010年 糸魚川市 下早川公民館
- 2011年 小千谷市 サンブラザ
- 2012年 長岡市寺泊 山長
- 2013年 上越市金谷山 晴山荘
- 2014年 関川村 農村文化交流センターの〜む
- 2015年 長岡市与板町 小川屋
- 2016年 長岡市朝日 こしじ水と緑の会「緑の家」

新潟県ホタル保護指導員講習会

目的

- ・ホタル保護の野外活動のボランティア指導員として、野外観察での指導、学校教育現場における指導、地域の自然保護とホタル生息環境の保全思想普及の核となる人材を育てる。
- ・自然を大切に作る仲間づくり。

1994（平成6）年から2013（平成25）年まで20回開催し、389名が指導員として認定。



新潟県ホタル保護指導員講習会の歩み

- 1994年 三島郡越路町 越路町福祉センター
- 1995年 三島郡越路町 越路町福祉センター
- 1996年 三島郡越路町 越路町福祉センター
- 1997年 三島郡越路町 越路町福祉センター
- 1998年 三島郡越路町 越路町福祉センター
- 1999年 三島郡越路町 越路町福祉センター
- 2000年 三島郡越路町 JAこしじ
- 2001年 柏崎市 鶴川公民館 綾子舞会館
- 2002年 上越市金谷山 晴山荘
- 2003年 三条市 熱帯植物園

新潟県ホタル保護指導員講習会の歩み

- 2004年 三島郡越路町 越路町福祉センター
- 2005年 魚沼市 中子沢温泉 羽川荘
- 2006年 長岡市来迎寺 越路総合福祉センター
- 2007年 上越市 大潟区総合事務所
- 2008年 阿賀町 御神楽温泉 小会瀬
- 2009年 上越市三和区 丸山酒造場
- 2010年 上越市大島区 大島区就業改善センター
- 2011年 胎内市 胎内アウレツ館
- 2012年 長岡市来迎寺 越路総合福祉センター
- 2013年 長岡市来迎寺 越路総合福祉センター

ホタル指導員養成講座

- 2014（平成26）年からは、今までの宿泊研修から日帰り研修とし、「ホタル指導員養成講座」としてリニューアル開催している。2017年4月現在、修了者は76名。修了者は学んだ知識を活かし、地元でのホタル保護活動で活躍している。



第3回ホタル指導員講習会（2016年関川村）の様子

ホタル指導員養成講座の歩み

- 2014年 長岡市塚野山 塚野山集落開発センター
- 2015年 三条市福島新田 かんきょう庵
- 2016年 関川村 農村文化交流センターの〜む
- 2017年 長岡市朝日 こしじ水と緑の会「緑の家」



研修会

- 新潟県内外のホタル生息地や活動状況を学ぶために開催。
- 2015,2016年は近県のホタルの会との交流を深めるため「北信越ホタル交流会」を開催。本年は、石川ホタルの会主催で金沢市にて開催予定。



北信越ホタル交流会（2016年長野県志賀高原）の様子

みどりの日「自然環境功労者環境大臣表彰」を受賞

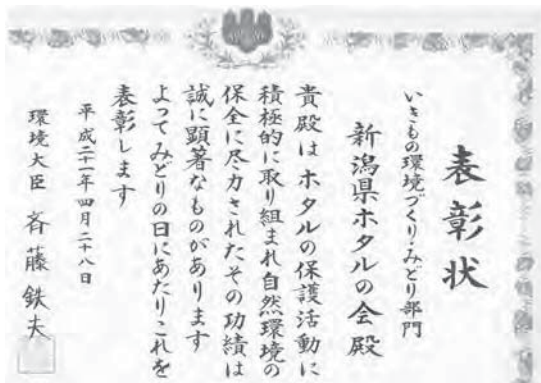
- 2009（平成21）年、ホタルを保護するボランティアの養成（新潟県ホタル保護指導員講習会）を15年間続けてきたことなどが評価され、「いきもの環境づくり・みどり部門」の表彰を受けた。



前会長の小菅英晴氏（2009年表彰式にて）



みどりの日「自然環境功労者環境大臣表彰」を受賞



新潟県ホタルの会は来年で設立30年



ホタルが生息できる豊かな自然環境を子孫の世代まで残していきたい・・・

全国ホタル研究会 発足 50 周年記念 座談会 「全国ホタル研究会の半世紀とこれから」

出席予定： 大場 信義（前会長，第 27 回(1994 年)～第 33 回(2000 年)）
遊磨 正秀（現会長，第 49 回(2016 年)～）
佐久間 桂祥（前事務局長，第 38 回(2005 年)～第 42 回(2009 年)）
中山 歳喜（現事務局長，第 43 回(2010 年)～）

昭和 43 年（1968 年）に始まりましたこの全国ホタル研究会は、本年で半世紀の歴史を刻みます。その間、さまざまな環境破壊・汚染問題が社会的に問題視され、1971 年に設置された環境庁が 2001 年に環境省に再編されて、環境関連の監視が強化されました。一方で、少なからぬ生き物が絶滅の危機に瀕していることが重視されるようになり、生物多様性条約の国際的締結を結ぶ動きが 1990 年代に進みました。それに呼応するように日本においても、環境・河川・農業・林業・漁業関連などの法規において環境保全あるいは生物多様性保全に配慮することが義務付けられました。それは、それまでの経済の発展を重視した社会の動きに対する反省ともいえるものです。

このような環境に関する社会的背景の変化のなか、北海道から沖縄（久米島）までの日本各地を巡って開催されてきました全国ホタル研究会の大会でも、ホタルに関するさまざまな課題が紹介されてきました。それには、各地においてホタルが減少したことから、その回復を目指し、またそれらの生息環境の改善を試みるといった、さまざまな粘り強い保全活動も多く含まれていました。たとえば、ホタルが増えることを願って放流に協力してきた時代もありましたし、その後、各地域の集団の間に遺伝的な違いがあることが明らかになると、無秩序な放流を自粛する指針を作成しました。また、ホタルを飼育する技術や、ホタルのための環境づくりについて次々にアイデアが披露されてきました。その過程で、新知見のみならず、改善すべきこと、反省すべきことも多く提示され、そしてたえず、何がいけないのか、考え、意見を交わしてきました。一方、ホタルは全国 11 か所で国の天然記念物に指定されているほか、多くの自治体でも保護・保全の条例が制定されています。そのようなところでも、改めて、指定されている対象をどのように管理していくのか、なにか保全の策を講じる必要はないのか、そして、なぜ保護・保全の対象とするのかについてまで議論されるようになっていきます。

この座談会では、全国ホタル研究会とホタル等の保護・保全の歴史を振り返りながら、今後の会の進むべき道について語りたいと考えています。



全国ホタル研究会50年の歩み — 研究大会開催地及び会長等の推移 —

大会回数	開催年月	開催地	会長	事務局長	事務局	編集長	備考
1	1968.8	滋賀県守山市	南喜市郎	西尾秋雄	徳島県	西尾秋雄	発会式
2	1969.8	山口県豊田町	南喜市郎	西尾秋雄	徳島県	西尾秋雄	
3	1970.8	岐阜県関市	南喜市郎	西尾秋雄	徳島県	西尾秋雄	
4	1971.8	東京都日野市	岡忠夫	西尾秋雄	徳島県	西尾秋雄	
5	1972.8	愛知県岡崎市	岡忠夫	西尾秋雄	徳島県	西尾秋雄	研究大会5周年(過去の発表内容の要約)
6	1973.8	福岡県柳川市	岡忠夫	西尾秋雄	徳島県	西尾秋雄	ほたる幼虫放流増殖事業開始
7	1974.8	宮城県仙台市	岡忠夫	西尾秋雄	徳島県	西尾秋雄	
8	1975.8	岐阜県岐阜市	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
9	1976.8	千葉県茂原市	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
10	1977.8	徳島県三好町	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	創立10年記念大会
11	1978.7	山形県米沢市	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
12	1979.7	鳥取県鳥取市	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	情報交換誌の発刊
13	1980.6	神奈川県箱根町	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
14	1981.6	熊本県阿蘇町	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	研究大会誌:総説カワニナの生活様
15	1982.6	愛知県岡崎市	岡忠夫	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	創立15年記念大会
16	1983.7	東京都東村山市	富岡秀(代理)	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
17	1984.7	滋賀県山東町	富岡秀(代理)	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	ほたる幼虫放流増殖事業廃止
18	1985.6	神奈川県横浜市	富岡秀(代理)	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
19	1986.5	福岡県福岡市	羽根田弥太	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
20	1987.6	広島県広島市	羽根田弥太	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	創立20年記念大会
21	1988.7	青森県青森市	羽根田弥太	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	団体会員枠の創設
22	1989.5	熊本県熊本市	羽根田弥太	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
23	1990.5	石川県金沢市	羽根田弥太	村上美佐男	鳥取県	村上美佐男	
24	1991.6	神奈川県箱根町	村上美佐男	圓谷哲男	神奈川県	圓谷哲男	研究大会誌:ホタル類の遺伝情報の研究発表初掲載, 研究会投稿規定
25	1992.5	長崎県長崎市	村上美佐男	圓谷哲男	神奈川県	圓谷哲男	
26	1993.6	静岡県沼津市	村上美佐男	圓谷哲男	神奈川県	圓谷哲男	
27	1994.7	新潟県長岡市	村上美佐男	圓谷哲男	神奈川県	圓谷哲男	
28	1995.6	愛知県小牧市	大場信義	大友佐登志	神奈川県	後藤好正	
29	1996.6	広島県福山市	大場信義	大友佐登志	神奈川県	後藤好正	
30	1997.6	北海道恵庭市	大場信義	大友佐登志	神奈川県	後藤好正	大会30年記念誌: 総目次, 日本産ホタル目録, 天然記念物指定および蛍保護条例制定地一覧
31	1998.6	福岡県北九州市	大場信義	圓谷哲男	神奈川県	後藤好正	
32	1999.6	群馬県月夜野町	大場信義	圓谷哲男	神奈川県	後藤好正	
33	2000.5	滋賀県守山市	大場信義	圓谷哲男	神奈川県	後藤好正	
34	2001.7	山形県米沢市	大場信義	圓谷哲男	神奈川県	後藤好正	
35	2002.6	徳島県美郷村	大場信義	圓谷哲男	神奈川県	後藤好正	
36	2003.4	沖縄県久米島町	大場信義	圓谷哲男	神奈川県	後藤好正	
37	2004.6	富山県高岡市	古田忠久	佐久間桂祥	愛知県	後藤好正	
38	2005.6	愛知県西尾市	古田忠久	佐久間桂祥	愛知県	後藤好正	
39	2006.6	山口県下関市	古田忠久	佐久間桂祥	愛知県	後藤好正	
40	2007.6	鳥取県鳥取市	古田忠久	佐久間桂祥	愛知県	後藤好正	ホタル類等生物集団の新規移植及び環境改変に関する指針の公開
41	2008.6	長崎県長崎市	古田忠久	佐久間桂祥	愛知県	後藤好正	
42	2009.7	青森県青森市	古田忠久	佐久間桂祥	愛知県	後藤好正	学生会員枠の創設
43	2010.7	長野県山ノ内町	中村光男	中山歳喜	福岡県	後藤好正	
44	2011.6	岡山県鏡野市	中村光男	中山歳喜	福岡県	後藤好正	
45	2012.5	鹿児島県霧島市	中村光男	中山歳喜	福岡県	後藤好正	
46	2013.6	福岡県北九州市	中村光男	中山歳喜	福岡県	後藤好正	
47	2014.6	福井県勝山市	中村光男	中山歳喜	福岡県	後藤好正	
48	2015.6	静岡県川根本町	中村光男	中山歳喜	福岡県	後藤好正	
49	2016.7	鳥取県米子市	遊磨正秀	中山歳喜	福岡県	高見明宏	
50	2017.7	新潟県関川村	遊磨正秀	中山歳喜	福岡県	高見明宏	全国ホタル研究会50年の歩み

賛助・寄付

(50音順、敬称略)

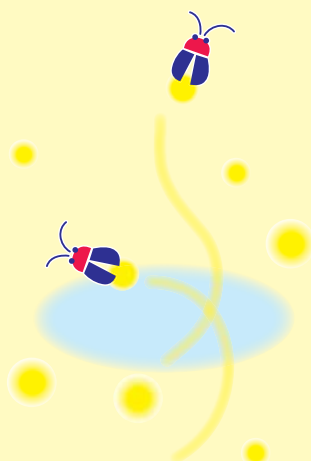
賛助

(株)石山建設、(有)石山測量設計事務所、(株)伊藤園新発田支店、N T T東日本新潟支店、女川ハム工房、(有)加藤酒造店、(有)小泉屋、鈴木土建(株)、(株)誠晃舎、関川村建築組合、関川村建設業協会、関川村森林組合、関川村塗装業組合、(有)高橋建材、(株)辻井製作所新潟工場、(株)ナカムラ、(株)長谷川電気工業所、(株)丸勝建設、(株)丸弥組、(株)丸山酒造場、三峰川電力(株)、(株)村上トラベルサービス、ヤマサグループ、(株)渡辺組

寄付（日本酒）

朝日酒造(株)、鮎正宗酒造(株)、池浦酒造(株)、池田屋酒造(株)、石塚酒造(株)、石本酒造(株)、魚沼酒造(株)、(株)越後鶴亀、尾畑酒造(株)、お福酒造(株)、下越酒造(株)、(有)加藤酒造店、菊水酒造(株)、君の井酒造(株)、麒麟山酒造(株)、久須美酒造(株)、頸城酒造(株)、越銘醸(株)、近藤酒造(株)、笹祝酒造(株)、塩川酒造(株)、上越酒造(株)、大洋酒造(株)、高の井酒造(株)、千代の光酒造(株)、(株)D H C酒造、新潟第一酒造(株)、新潟銘醸(株)、白瀧酒造(株)、ふじの井酒造(株)、(株)北雪酒造、(株)マスカガミ、(株)松乃井酒造場、(株)丸山酒造場、緑川酒造(株)、峰乃白梅酒造(株)、妙高酒造(株)、村祐酒造(株)、諸橋酒造(株)、弥彦酒造(株)、吉乃川(株)、(資)渡辺酒造店





●● 発行 ●●

第50回全国ホテル研究会新潟県関川村大会実行委員会
事務局 / 〒959-3292 新潟県岩船郡関川村大字下関912 (関川村農林観光課内)
TEL **0254-64-1478** FAX **0254-64-0079**